

## 平成20年度 助成対象者研究報告書概要

### 【児童養護施設】

研究の種類	研究テーマ・研究概要報告	研究者(敬称略)
研究A (自主研究)	大学との連携による食育活動	岡山市善隣館 野上晃司
	<p>児童養護施設で暮らす子どもたちは、衛生管理の面から自ら食事を「つくる」体験が難しい環境の中、子どもたちの食生活の自立に向け、「つくる」体験を重視した食育事業を近隣の大学との協働で行った研究事業である。なお、平成19年度から自主研究として実施している。</p> <p><b>【研究内容】</b> 平成20年度は、岡山市内の児童養護施設3施設から、それぞれ児童3名と職員1名、大学からは、保育・教育者をめざす学生ボランティア10名と教員5名が参加し、食の基本となる主食、米を中心に置いた食育プログラムを、子どもの特性等に配慮したプログラムを企画した。具体的には、①米を鍋を使って炊くことができる技術、②米に合う副菜を作ることができる技術の習得を柱とし、発達障害のある子どもにも分かりやすく調理の注意事項や興味を喚起するような教材づくりに学生ボランティアが中心に取り組んだ。また、食べものの生産から食卓までの食の循環性を体験的に学べるよう、岡山県農林業実践学習の里「体験学習農園」において合宿を行った。</p> <p><b>【研究成果】</b> ①食育プログラムの実施による成果では、子どもたちが回数を重ねるごとに「つくる」ことに対する興味・関心を持ち、自己効力感が高められた。また、食事の場面では、自分の作った料理を食べてもらうという体験も加わり、「つくる」とつながった「食べる」ことへの満足感も得ることができた。さらに、施設に戻ってからも、食育プログラムで学んだことを、未参加の子どもたちへ話す場面がみられ、プログラム未参加の子どもたちへの波及効果があった。 ②子どもたちと学生ボランティアとの関係づくりという点では、担当制をとったことにより、安定した状態を保って活動が行えた。また、継続的なかわりをおして、学生がそれぞれ担当する子どもたち一人ひとりにあった言葉かけや対応の仕方を学ぶことができた。子どもたちも、特定の学生を、「自分たちのお兄ちゃん・お姉ちゃん」として関係を深めていくなかで、回を追うごとに、より積極的に参加するようになっていった。</p> <p><b>【課題】</b> 今後は、本研究事業が子どもたちにもたらした効果の検証と、施設外での活動の意義を明確にしていくことが必要であると思われる。</p>	

【保育所】

研究の種類	研究テーマ・研究概要報告	研究者(敬称略)
研究B (専門研究)	<p>家庭における育児不安や、親の悩みなどについての実態調査 保護者が求める子育て支援とは～親の心に寄り添う支援をめざして～</p> <hr/> <p>子どもの育ちをめぐる環境が大きく変化する中、保育所の保護者を対象に平成 19 年度に「子育てに関するアンケート」を実施した。平成 20 年度は、アンケート結果を基に、子育てに対する不安や子育ての価値観などについて把握するとともに、保護者支援や子育て支援の課題や方法について研究を行った。</p> <p><b>【研究方法の概要】</b> 県内の地区組織より選出された調査研究委員 11 名と学識者により「アンケート集計の分析と考察」を行った。なお、アンケートは山形県を 4 圏域に分け、各 3 施設、計 12 ヲ所において、3 歳以上児の保護者、744 人を対象に実施した。回収数は 574 件(回収率は 77%)であった。</p> <p><b>【研究成果】</b> 調査を始める時点では、子育て中の保護者は、子どもに求めることと現実の子どもの姿のギャップに戸惑いや不安を抱えているのではないかと、あるいは子育てより保護者自身の時間や生活を優先する傾向にあるのではないかと予測していた。ところが、アンケートを集計していくなかで、子どもを無条件に「かわいい」と感じており、子育てを楽しんでいる保護者が多くいるということがわかってきた。</p> <p>しかし一方では、子どもの言動にショックを受けたり、子どもの内面が理解できないため不安を感じている保護者の実態が見えてきた。このような不安は、「初めての子育て」の保護者に多くみられ、子育て経験との関連性があることがわかった。</p> <p>また、三世代同居率の上位の地域である本県は祖父母による協力が多く、子育てしやすい環境ではないかと予想したが、実際には家事への協力が少ないと感じ、不安や悩みを打ち明けられず、その環境自体がストレスになり、子育てを辛く負担となっている現状が見えてきた。更には、子育ての相談相手は友人が多いという結果から、子育て支援を担っている保育所の役割と保育士の援助のあり方の課題が見えてきた。</p> <p>また、保育所が担う子育て支援として、保護者を取り巻く家庭・職場・地域・行政などの社会に対して、保護者の子育てへの思いや願いを伝えていき、子育てしやすい環境つくりのための取り組みが必要であると思われる。</p>	山形県保育協議会